

B-122 身長に対する頸付根囲, 胸囲, 胴囲, 腰囲のアロメトリー

お茶の水女大家政 ○小宮真理子 高部啓子 中川真喜子
杏林大医 芦沢玖美 大妻女大家政 柳沢澄子

目的 われわれは衣服サイズ設定の立場から, 成長期の子供の体型把握には, 従来生物学の分野で用いられているアロメトリーの概念をとり入れることが有効と考え, この見地から検討を試みている。今回は成長期における身長と周径項目のアロメトリーについて報告する。

方法 資料は1966 - 67年に工業技術院が行なった「日本人の体格調査資料」のうち, 7 - 19歳男女各年令 500例, 計 13,000例の身体計測データである。性別に7 - 19歳を一括し, 身長をX軸に, 頸付根囲, 胸囲, 胴囲, 腰囲をY軸にとり, 各々について不偏長軸と変移点を求めた。

結果 1) 頸付根囲, 胸囲, 胴囲の3項目は男女とも2相アロメトリーを示す。腰囲は男子で2相, 女子では3相アロメトリーを示す。

2) 2相アロメトリーの場合, 男子では変移点が身長 153 - 156 cm に, 女子では身長 141 - 145 cm にあらわれる。

3) 腰囲を除く3項目は男女とも才I相で負の成長, 才II相では正の成長を示す。腰囲は男女とも全相で正の成長を示すが, 身長が高いグループほど傾きが大きい。